



西梅田発の新しいエンターテインメントの形

「ハービス ENT」のネーミングの由来のひとつである、エンターテインメント。その象徴ともいえる館内の施設が、新しく開業する「大阪四季劇場」と、移転オープンする「大阪ブルーノート」です。

大阪厚生年金会館やフエスティブアルホール、サンケイホールなど、大阪のホール施設が多く集まる四つ橋筋沿い。その起点、西梅田に開業するハービス ENTに、「大阪四季劇場」「大阪ブルーノート」が登場します。大型商業施設では、あまり例を見ない本格的なエンターテインメント施設。舞台やライブの前後に、館内でショッピングや食事もし楽しめるとあって、「大人の街遊びの場」としても注目したいところ

「大阪四季劇場」と「大阪ブルーノート」登場



約2倍のスペースになる「大阪ブルーノート」ではジャズはもちろん、R&Bやロックなどこれまで以上に多彩なジャンルのアーティストの音楽が楽しめます。

「昔、芝居小屋の周辺には、舞台の合間に飲食を楽しむ『お茶屋』が発達し、にぎわいをみせたといえます。グルメスポットに、エンターテインメント施設を兼ね備えたハービス ENTが芝居小屋とお茶屋が一体化した、現代の『劇場街』になれば」と、阪神電気鉄道西梅田開発室部長の小林幹彦さん。

劇団四季の関西初常設劇場となる「大阪四季劇場」では、「ABBA」のナンバーでつづられた、世界的ヒットのミュージカル「マンマ・ミーア」が、来年1月のこけら落とし公演として決定。また、大阪を代表するライブハウスの一つ「大阪ブルーノート」は現在のスペースの約2倍の広さとなつて、11月9日(火)にグラウンドオープン。その幕開けを、エレガントな歌声が魅力のヴァネッサ・ウィリアムスが飾ります。

エンターテインメント面からも、新しいスタイルを提案するハービス ENT。大阪の文化力を、より一層盛り上げる起爆剤となつてくれそうです。